

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

教科 [社会] 種目 [地図]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市には、官公庁や商業施設が集まる地域、工業・農業・漁業が行われている地域、宅地造成により住宅地が広がる地域、豊かな自然の残る地域など、それぞれに異なる特色をもつ地域が分散している。社会的事象を学ぶ社会科にとっては、様々な分野の事象を具体的に観察・調査することができる環境にあるため、児童が興味・関心をもちながら学習することができる好条件の市域である。
- 国際平和文化都市である本市で学ぶ児童は、平和に対する意識が総じて高い。また、様々な社会的事象への関心も高く、体験的な学習にも積極的に取り組むことができる。しかし、自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図る力、また、身に付けた知識や調べたことを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力には課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫 ○ 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
<学習方法の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心を高めるための工夫 ○ 問題解決的な学習を実施するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地図や資料等の配列
<内容の表現・表記>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用 ○ 配色や文字の大きさ等の工夫
<言語活動の充実>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

3 各教科書の特徴及び意見

東 書 籍 （ 東 京 書 籍	<p>1 基礎・基本の定着</p> <p>(1) <u>地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地図帳の使い方」のページを設け、方位、縮尺、土地の高さ、地図記号の説明を掲載している。 ○ 「日本の47都道府県」のページを設け、47都道府県の名称と位置を示すとともに、形や特色をクイズ形式で紹介している。 ○ 「世界全図と地球儀」のページを設け、地球儀の使い方を写真を用いて示している。 <p>(2) <u>我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本とそのまわり」のページを設け、排他的経済水域と東西南北端の4島の位置を示すとともに、写真を掲載している。 ○ 「日本列島」のページでは、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を示している。 ○ 「日本の自然災害」のページでは、自然災害の起こった位置を示すとともに6枚の写真を掲載している。 <p>2 学習方法の工夫</p> <p>(1) <u>興味・関心を高めるための工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ キャラクターの吹き出しで地図を見ての気付きや疑問などを記載している。 ○ 「日本の歴史と文化ー世界遺産ー」のページで、原爆ドームと厳島神社の写真を掲載している。 <p>(2) <u>問題解決的な学習を実施するための工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「～を調べてみよう」「～をはかってみよう」「～をさがしてみよう」等、活動を促す記述を掲載している。 <p>3 内容の構成・配列・分量</p> <p>(1) <u>地図や資料等の配列</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ A版94ページ ○ 日本全図は400万分の1、各地方図は原則として100万分の1（北海道地方は160万分の1）、都市圏などの拡大図は50万分の1から5万分の1、世界地図は4000万分の1から2000万分の1の縮尺で示している。 <p>4 内容の表現・表記</p> <p>(1) <u>学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地図帳の使い方」のページでさくいんのひき方を5コマの漫画で示している。 ○ さくいんを、日本と世界に分けて10ページ掲載している。「チェック欄」や「マイ・インデックス」という活動を促すコーナーもある。 ○ 「日本の歴史と文化ー世界遺産ー」のページで、13カ所の世界文化遺産を地図に示し、13枚の写真を掲載している。また、歴史的な名所や各地の祭り、昔の国名（明治元年）等を示している。 <p>(2) <u>配色や文字の大きさ等の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カラーユニバーサルデザインに配慮しており、明るくくっきりとした色づかいであるとともに、紙面が光って見づらくならない用紙を使用している。 <p>5 言語活動の充実</p> <p>(1) <u>調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が調べたことや考えたことを表現する力を育成するために次のような言語活動例を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ① 自分が住んでいる所の気温や降水量を調べて、グラフをかく。 ② 行ったことのある所や行ってみたい所を記入して、自分だけのさくいんを作る。 <p>意見</p> <p>東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。 (理由) 東京書籍の教科書の特徴は、自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図る力、また、身に付けた知識や調べたことを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力に課題がある本市児童の実態に対応することができるものである。</p>
--------------------------------------	---

1 基礎・基本の定着

(1) 地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫

- 「地図のなりたちとよくそくごと」のページを設け、方位、縮尺、土地の高さ、地図記号の説明を掲載している。
- 「日本の都道府県」のページを設け、47都道府県の名称と位置を示すとともに、有名なものをイラストとともに掲載している。
- 「私たちの地球」のページを設け、地球儀の使い方を写真を用いて示している。

(2) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 「日本とそのまわり」のページを設け、排他的経済水域と東西南北端の4島の位置を示すとともに、写真を掲載している。
- 「日本列島」のページでは、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を示すとともに写真と「日本固有の領土」という説明を掲載している。
- 「地震・火山の災害と防災」のページでは、自然災害の起こった位置を示すとともに2枚の写真を掲載している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- キャラクターの吹き出しで地図を見ての気付きや疑問などを記載している。
- 「日本の歴史」のページで、厳島神社の写真を掲載している。
- 「中国地方」のページで、「広島市のようす」という主題図を掲載し、爆心地からの距離や原爆の被害状況を示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 「～をしょうかいしよう」「～をさがして印をつけよう」「～を調べよう」等、活動を促す記述を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 地図や資料等の配列

- AB版86ページ
- 日本全図は400万分の1、各地方図は原則として100万分の1（北海道地方は200万分の1）、都市圏などの拡大図は50万分の1から10万分の1、世界地図は4000万分の1から1500万分の1の縮尺で示している。

4 内容の表現・表記

(1) 学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 「地図帳の使い方」のページでさくいんのひき方を図解で示している。
- さくいんを、日本と世界に分けて6ページ掲載している。「トライ」という活動を促すコーナーもある。
- 「日本の歴史」のページで、13カ所の世界文化遺産を地図に示し、7枚の写真を掲載している。また、日本の歴史の主な出来事を示した年表や江戸時代の交通路、昔の国名（明治元年）や歴史の舞台になった場所等を示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮しており、赤色文字の都道府県名や国名には黒色で縁取りして読みやすくしている。また、山地や川、県境や自動車道等が識別しやすい配色にしている。

5 言語活動の充実

(1) 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 児童が調べたことや考えたことを表現する力を育成するために次のような言語活動例を示している。
 - ① 自分の住んでいる都道府県や知っている都道府県の紹介文を書く。
 - ② 防災への意識を高めるために、防災マップを作成する。

意見

帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

帝国書院の教科書の特徴は、社会の学習において必要な情報を取り出しやすく有効に活用できるものであるとともに、自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図る力、また、身に付けた知識や調べたことを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力に課題がある本市児童の実態により対応することができるものである。

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

教科〔算数〕 種目〔算数〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、児童の思考力・判断力・表現力の育成を目指して、授業において、めあてを明確にし、算数的活動に重点をおいた授業づくりに取り組んでいる。また、全小学校第1学年から第4学年において帯時間を設定し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っている。
- 平成25年度の「基礎・基本」定着状況調査によると、四則計算は概ね定着しているが、量感覚の定着や図形の定義や性質を適切に記述することに課題がみられる。また、平成25年度の全国学力・学習状況調査によると、課題解決に向けて、与えられた情報を整理し、筋道を立てて考え、それを基に条件に合うものを判断することや、解決する過程を式や言葉等で表現し、根拠を明確にして考えを説明することに課題がみられる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫 ○ 単元の目標の示し方
＜学習方法の工夫＞	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心を高めるための工夫 ○ 問題解決的な学習を実施するための工夫 ○ 作業的・体験的な学習を実施するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元や資料等の配列 ○ 補充的な学習や発展的な学習の取扱い
＜内容の表現・表記＞	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫 ○ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

3 各教科書の特徴及び意見

東
書
籍
（
東
京
書
籍

- 1 基礎・基本の定着
 - (1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫
 - 単元末に評価問題があり、3年以上には、各問題ごとに振り返りのページを示している。
 - 単元末の評価問題に答えはない。
 - 単元末に、評価問題とは別に練習問題があり、繰り返し練習できるようにチェック欄が2つある。
 - 学習した言葉や記号、学習したページが分かるように、巻末に索引がある。
 - 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページがある。
 - 数単元ごとに、復習問題とその答えがある。
 - (2) 単元の目標の示し方
 - 単元名と同じ場所に、単元の目標を大きく黒文字で示している。
- 2 学習方法の工夫
 - (1) 興味・関心を高めるための工夫
 - 身近なものを写真や絵で提示している。
 - (2) 問題解決的な学習を実施するための工夫
 - 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
 - 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
 - 45分の授業の進め方が、授業を進めながら分かるように、各学年数単元ずつ単元の中に詳しく示している。
 - 数学的な考え方を、単元の中で学習展開に沿って示している。
 - (3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫
 - 作業的・体験的学習に使えるページが、全学年巻末にある。
 - 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動を促すために、写真から重い順を判断できないようになっている。
- 3 内容の構成・配列・分量
 - (1) 単元や資料等の配列
 - 6年、年間1冊。1～5年、年間2冊。
 - 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っている。
 - 目次に、前の学習→今の学習→後の学習と、単元の系統性を示している。
 - (2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い
 - 3年以上には、補充問題と発展問題を区別して掲載している。
 - 補充問題と発展問題の答えを掲載している。
 - 補充問題と発展問題のページ数
2年12p、3年18p、4年23p、5年28p、6年15p。
- 4 内容の表現・表記
 - (1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫
 - 2年「分数」では、具体物の絵を導入で使い、その後、折り紙の図、3年につながるテープの図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
 - 4年「直方体と立方体」では、細かく段階を経て立体を理解するために、具体物の写真、見た目の図、展開図、見取図の順で内容を表示している。
 - (2) 配色や文字の大きさ等の工夫
 - 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。
- 5 言語活動の充実
 - (1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫
 - 全ての学年にノート例を示している。
 - 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定している。
 - 5年「台形の面積」では、3人の考えを説明するために図と式を示し、数学的な表現を用いた説明を途中まで例示している。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書の特徴は、児童の思考力・判断力・表現力の育成を目指して、めあてを明確にし、算数的活動に重点をおいた授業づくりに取り組み、また、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っている本市の実態に適切に対応でき、さらに、量感覚の定着や図形の理解、また、筋道を立てて考え、表現し、説明することに課題がある本市児童の状況に、より丁寧に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 単元末に評価問題があり、各問題ごとに振り返りのページを示している。
- 単元末の評価問題に答えはない。
- 単元末に、評価問題とは別に練習問題はない。
- 学習した言葉や記号、学習したページが分かるように、巻末に索引がある。
- 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページはない。
- 数単元ごとに、復習問題がある。

(2) 単元の目標の示し方

- 単元名と同じ場所に、単元の目標を大きく黒文字で示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 身近なものを写真や絵で提示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
- 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
- 45分の授業の進め方が、前学年の学習を例に、巻頭に示している。
- 数学的な考え方をまとめた解説ページはない。

(3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

- 作業的・体験的学習に使えるページが、全学年巻末にある。
- 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動として、写真から重い順を判断できるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 1～6年、年間1冊。
- 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っている。
- 目次に、前の学習→今の学習と、単元の系統性を示している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充問題と発展問題を同ページに掲載している。
- 補充問題と発展問題の答えを掲載している。
- 補充問題と発展問題のページ数
2年 14p、3年 14p、4年 18p、5年 15p、6年 14p。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 2年「分数」では、具体物の写真を導入で使い、その後、折り紙の図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
- 4年「直方体と立方体」では、具体物の写真、見取図、展開図の順で内容を表している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

- 2年以上の学年にノート例を示している。
- 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定し、説明を教科書に書き込めるようにしている。
- 5年「台形の面積」では、3人の考えを説明するために、図のみ例示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 単元末に評価問題があり、各問題ごとに振り返りのページを示している。
- 単元末の評価問題に答えはない。
- 単元末に、評価問題とは別に練習問題があり、繰り返し練習できるようにチェック欄が2つあり、答えも巻末にある。
- 学習した言葉や記号、学習したページが分かるように、巻末に索引がある。
- 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページはない。
- 数単元ごとに、復習問題とその答えがある。

(2) 単元の目標の示し方

- 単元名と同じ場所に、単元の目標を小さく黒文字で示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 身近なものを写真や絵で提示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
- 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
- 45分の授業の進め方が、授業を進めながら分かるように、各学年数単元ずつ単元の中に示している。
- 数学的な考え方をまとめた解説ページがある。

(3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

- 作業的・体験的な学習に使えるページが、全学年巻末にある。
- 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動として、写真から重い順を判断できるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 1、5年、年間1冊。2、3、4年、年間2冊。6年、年間1冊と別冊。
- 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っている。
- 目次に、前の学習→今の学習と、単元の系統性を示している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充問題と発展問題を区別して掲載している。
- 3年以上に、補充問題の答えを掲載している。発展問題の答えはない。
- 補充問題と発展問題のページ数
1年9p、2年22p、3年24p、4年26p、5年14p、6年12p。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 2年「分数」では、具体物の写真を導入で使い、その後、折り紙の図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
- 4年「直方体と立方体」では、具体物の写真、見取図、展開図の順で内容を表している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

- 2年以上の学年にノート例を示している。6年は、レポート例も示している。
- 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定している。
- 5年「台形の面積」では、4人の考えを説明するために、図を示し、その中の1つの考えだけ、数学的な表現を用いた説明を例示している。

意見

学校図書の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

学校図書の教科書の特徴は、児童の思考力・判断力・表現力の育成を目指して、めあてを明確にし、算数的活動に重点をおいた授業づくりに取り組み、また、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っている本市の実態や、筋道を立てて考え、表現し、説明することに課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 単元末に評価問題があり、各問題ごとに振り返りのページを示している。
- 単元末の評価問題に答えはない。
- 単元末に、評価問題とは別に練習問題はない。
- 学習した言葉や記号、学習したページが分かるように、巻末に索引がある。
- 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページが、5・6年にある。
- 数単元ごとに、復習問題とその答えがある。

(2) 単元の目標の示し方

- 単元名が大きく黒文字で示してあり、単元の目標はない。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 身近なものを写真や絵で提示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
- 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
- 45分の授業の進め方が、おもしろ問題を例に、巻頭に示している。
- 数学的な考え方をまとめた解説ページが、3年以上にある。

(3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

- 作業的・体験的学習に使えるページが、全学年巻末にある。
- 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動として、写真から重い順を判断できるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 1、5、6年、年間1冊。2、3、4年、年間2冊。
- 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っている。
- 目次に、前の学習→今の学習と、単元の系統性を示している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充問題と発展問題を同ページに掲載している。
- 補充問題と発展問題の答えを掲載している。
- 補充問題と発展問題のページ数
2年13p、3年14p、4年17p、5年19p、6年16p。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 2年「分数」では、具体物の写真を導入で使い、その後、折り紙の図、3年につながるテープの図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
- 4年「直方体と立方体」では、具体物の写真、見た目の図、見取図、展開図の順で内容を表している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

- 2年以上の学年にノート例を示している。
- 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定している。
- 5年「台形の面積」では、3人の考えを説明するために図を示し、説明を途中まで例示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 単元末に評価問題があり、各問題ごとに振り返りのページを示し、問題を解いたことを確認するチェック欄がある。
- 4年生以上の学年で、単元末の評価問題に答えがある。
- 単元の途中途中で、評価問題とは別に練習問題がある。
- 学習した言葉や記号、学習したページが分かるように、巻末にまとめがある。
- 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページが、5・6年にある。
- 数単元ごとに、復習問題がある。

(2) 単元の目標の示し方

- 単元名は青文字で、単元の目標は導入後オレンジ文字で示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 身近なものを写真や絵で提示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
- 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
- 45分の授業の進め方が、前学年の問題を例に、巻頭に示している。
- 数学的な考え方をまとめた解説ページがある。

(3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

- 作業的・体験的学習に使えるページが、全学年巻末にある。
- 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動として、写真から重い順を判断できるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 1、5、6年、年間1冊。2、3、4年、年間2冊。
- 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っているページもある。
- 目次に、前の学習→今の学習と、単元の系統性を示している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充問題と発展問題を区別して掲載している。
- 補充問題の答えを掲載している。発展問題の答えはない。
- 補充問題と発展問題のページ数
1年3p、2年32p、3年35p、4年30p、5年26p、6年26p。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 2年「分数」では、具体物の写真を導入で使い、その後、折り紙の図、3年につながるテープの図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
- 4年「直方体と立方体」では、具体物の写真、見取図、展開図の順で内容を表している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

- 2年以上の学年にノート例を示している。
- 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定している。
- 5年「台形の面積」では、2人の考えを説明するために図を示し、数学的な表現を用いた説明を途中まで例示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 単元末に評価問題があり、各問題ごとに振り返りのページを示している。
- 単元末の評価問題に答えはない。
- 単元末に、評価問題とは別に練習問題はない。
- 学習した言葉や記号、学習したページが分かるような索引はない。
- 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページがある。
- 2年以上の学年で、数単元ごとに、復習問題がある。

(2) 単元の目標の示し方

- 単元名と同じ場所に、単元の目標を大きく黒文字で示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 身近なものを写真や絵で提示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
- 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
- 45分の授業の進め方が、前学年の問題を例に、巻頭に示してあり、授業を進めながらも分かるように、各学年数単元ずつ単元の中に詳しく示している。
- 数学的な考え方を解説するページがあり、また、単元の中にも学習展開に沿って示している。

(3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

- 作業的・体験的学習に使えるページが、1～5年の巻末にある。
- 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動として、写真から重い順を判断できるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 1年、年間1冊。2～6年、年間2冊。
- 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っている。
- 目次に、前の学習→今の学習と、単元の系統性を示している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充問題と発展問題を区別して掲載している。
- 補充問題と発展問題の答えを掲載している。
- 補充問題と発展問題のページ数
2年 38p、3年 44p、4年 40p、5年 44p、6年 36p。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 2年「分数」では、折り紙の図を導入で使い、その後、3年につながるテープの図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
- 4年「直方体と立方体」では、具体物の写真、見ための図、見取図、展開図の順で内容を表している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

- 2年以上の学年にノート例を示している。
- 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定している。
- 5年「台形の面積」では、2人の考えを説明するために、図を示し、説明を途中まで例示している。

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

教科〔理科〕種目〔理科〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市は、都市部や山間部が広く分布しており、地域により自然環境も様々である。また、こども文化科学館、安佐動物公園、植物公園、江波山気象館、広島市森林公園こんちゅう館等の施設があり、様々な分野の事象を具体的に観察、調査することのできる環境にある。
- 「基礎・基本」定着状況調査において、本市の児童の学力の実態として、「物質」、「エネルギー」、「地球」の領域において基礎的・基本的な知識及び技能を活用する力に課題がみられる。また、観察、実験の結果などについて、その要因や根拠を考察し、説明することに課題がみられる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知識の定着を図るための工夫 ○ 観察・実験の技能を習得させるための工夫
<学習方法の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心を高めるための工夫 ○ 問題解決の能力を育成するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の配列の工夫 ○ 補充的な学習や発展的な学習の取り扱い
<内容の表現・表記>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挿絵・写真等の示し方 ○ 配色や文字の大きさ等の工夫
<言語活動の充実>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

3 各教科書の特徴及び意見

東京書籍
(東京書籍)

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元の始めに「思い出そう」のコーナーがあり、これまでの学習が振り返られるように示している。
- 単元の最後に直接書き込める確認の問題を示している。
- 4、5、6年の巻頭に前学年までに学んだ内容を、単元ごとに2ページで示している。
- 各学年の巻末に単元ごとの振り返りを3ページで記載している。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色で「きけん」と示し、注意点を赤色で強調して記述している。
- 4、5、6年において理科室の使い方を写真とイラストで示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関係する写真やイラストを大きく掲載している。
- 全学年の巻末に付録がついており、3年では「昆虫の切り絵」、4年では「星座カード」、5年では「実物大の胎児の様子」、6年では「人体模型づくり」を掲載している。
- 広島市内の写真(森林公園こんちゅう館、江波山気象館、鈴張川)を掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 全学年において、2ページ使用し、理科の学習の進め方の順序が分かるようにイラストと文字で示され、各学年で重視すべき問題解決の能力についても記述している。
- 5年「植物の発芽と成長」において、調べる条件、同じにする条件を区分して条件制御の視点を示すとともに、結果の予想を位置付けている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 目次において単元名を区分「A物質・エネルギー」「B生命・地球」ごとに色分けをして示している。
- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年は14単元、156ページで構成している。
 - ・ 4年は16単元、184ページで構成している。
 - ・ 5年は10単元、168ページで構成している。
 - ・ 6年は12単元、208ページで構成している。
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B生命・地球」の内容を、後半は「A物質・エネルギー」を配列している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取り扱い

- 補充的な学習として既習内容を確認する問題と既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 全学年において「わたしの研究」として、3年は4ページ、4、5、6年は2ページで研究の方法を記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の示し方

- 4年の「あたたかさと生き物」では、導入において春夏秋冬の様子を2ページずつ使用し掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、全国7つの川それぞれの上流、中流、下流の写真を掲載している。
- 6年「大地のつくり」において最初の問題が提示されるまでに、全国4カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「水のすがたと温度」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、手書き風の表とグラフ例が示され、「考えよう」という項目を立てて、結果からどのようなことが言えるのか考えさせるようにしている。
- 5年「ふりこのきまり」において、実験の結果を表に表し、「考えよう」という項目を立ててグラフ化させ、グラフの比較から考察に進むようにしている。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書の特徴は、児童が興味・関心をもって学習を進めることができ、問題解決の過程に沿って学習を進め、単元末に説明する活動を位置付けてあり、『基礎的・基本的な知識及び技能を活用する力』『観察、実験の結果などについて、その要因や根拠を考察し、説明すること』に課題がある本市児童の実態に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元の始めに「〇年で学習したこと」のコーナーがあり、これまでの学習が振り返られるように示している。
- 単元の最後に直接書き込める確認の問題を示している。
- 各学年の巻末に単元ごとの振り返りが4ページで記載され、チェックする欄を設け学習した内容を確認できるようにしている。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色の背景で黄色の文字で「ちゅうい」と示し、注意点を赤色の点線で囲み赤色の文字で強調して記述している。
- 4年において理科室の使い方を写真とイラストで示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関係する写真やイラストを大きく掲載している。
- 3、4年に付録がついており、3年では「昆虫や植物のシール」「動物・植物シート」、4年では「星座シート」を掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 全学年において、2ページ使用し、理科の学習の進め方の順序が分かるようにイラストと文字で示され、各学年で重視すべき問題解決の能力についても記述している。
- 5年「植物の発芽」において、調べる条件、同じにする条件を区分して条件制御の視点を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 目次において単元名を区分「A物質・エネルギー」「B生命・地球」ごとに色分けをして示している。
- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年は14単元、140ページで構成している。
 - ・ 4年は16単元、176ページで構成している。
 - ・ 5年は11単元、168ページで構成している。
 - ・ 6年は12単元、188ページで構成している。
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B生命・地球」の内容を、後半は「A物質・エネルギー」を配列しているが、前半に1単元A区分の単元（ゴムや風でものをうごかさう）を配置している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取り扱い

- 補充的な学習として既習内容を確認する問題と既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 全学年において「自由研究」として、4ページで研究の方法を記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の示し方

- 4年「季節と生き物」では、導入において小学校で見られる動物や植物の春夏秋冬の様子を2ページずつ使用し掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、上流の様子を紹介として3つの川の写真を掲載し、下流の様子を紹介として別の川3つの写真を掲載し、1つの川の上流、中流、下流の写真を掲載している。
- 6年「土地のつくりと変化」において最初の問題が提示されるまでに、全国4カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「すがたをかえる水」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、手書き風の表とグラフ例が示され、「考えよう」という項目を立てて結果からどのようなことが言えるのか考えさせるようにしている。
- 5年「ふりこの動き」において、実験の結果を表に表し、「考えよう」という項目を立ててグラフ化させ、グラフの比較から考察に進むようにしている。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元の始めに「思い出してみよう」のコーナーがあり、これまでの学習が振り返られるように示している。
- 単元の最後に確認の問題を示している。
- 5、6年の巻頭に前学年までに学んだ内容と問題解決の能力を、1ページで示している。
- 各学年の巻末に単元ごとの振り返りが1ページで記載している。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色の背景で白の影付きの文字で「注意」とし、注意点を欄外に赤色の文字で強調して記述している。
- 4、5、6年において理科室の使い方を写真とイラストで示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関係する写真やイラストを大きく掲載し、5年以降では、その単元の観察や実験に使用するものを掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 全学年において、2ページ使用し、理科の学習の進め方の順序が分かるようにイラストと文字で示され、各学年で重視すべき問題解決の能力についても記述している。
- 5年「種子の発芽と成長」において、問題解決の過程に沿ったノート記述例を示すとともに、調べる条件、そろえる条件を区分して条件制御の視点を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 目次において単元名を区分「A 物質・エネルギー」「B 生命・地球」ごとに色分けをして示している。
- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年は15単元、140ページで構成している。
 - ・ 4年は15単元、176ページで構成している。
 - ・ 5年は11単元、172ページで構成している。
 - ・ 6年は10単元、216ページで構成している。
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B 生命・地球」の内容を、後半は「A 物質・エネルギー」を配列している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取り扱い

- 補充的な学習として既習内容を確認する問題と既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 巻末に研究の方法を3年は8ページ、4年は6ページ、5年は7ページ、6年は7ページで記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の示し方

- 4年「季節と生きものの様子」では、導入において春夏秋冬の様子を同じページ内において前の時期と比較できるように掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、1つの川の上流から下流までの6カ所の写真を掲載し、全国4つの川の上流、下流の写真を掲載している。
- 6年「大地のつくりと変化」において最初の問題が提示されるまでに、全国3カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「水の3つのすがた」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、手書き風の表とグラフ例が示され、水が凍る様子についてまとめるようにしている。
- 5年「ふりこの運動」において、実験の結果を表とグラフに表し、グラフの比較から考察に進むようにしている。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元の始めに「学習のつながり」のコーナーがあり、これまでの学習が振り返られるように示している。
- 単元の最後に直接書き込める確認の問題を示している。
- 4、5、6年の巻頭に前学年までに学んだ内容を、単元ごとに2ページで示している。
- 各学年の巻末に単元ごとの振り返りが2ページで記載され、チェックする欄を設け学習した内容を確認できるようにしている。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色の背景で白抜き赤色の文字で「注意」と示し、けがややけどなど特に安全への注意が必要な場面を「危険」のマークでも示し、注意点を赤色の文字で強調して記述している。
- 4年において理科室の使い方を写真とイラストで示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関する写真やイラストを大きく掲載している。
- 4年に付録がついており、「星座カード」を掲載している。
- 広島市内の写真（森林公園こんちゅう館、こども文化科学館、江波山気象館、健康科学館、清掃工場、太田川、ホテルプロジェクトの様子、植樹の様子）を掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 全学年において、2ページ使用し、理科の学習の進め方の順序が分かるように各学年で学習する内容を例としてイラストと文字で示すとともに、各学年で重視すべき問題解決の能力についても記述している。
- 5年「発芽と成長」において、問題解決の過程に沿ったノート記述例を示す中で、変える条件、同じにする条件を区分して条件制御の視点を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 目次において単元名を区分「A物質・エネルギー」「B生命・地球」ごとに色分けをして示している。
- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年は14単元、180ページで構成している。
 - ・ 4年は17単元、208ページで構成している。
 - ・ 5年は14単元、196ページで構成している。
 - ・ 6年は11単元、206ページで構成している。
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B生命・地球」の内容を、後半は「A物質・エネルギー」を配列しているが、前半に1単元A区分の単元（風やゴムのはたらき）を配置し、後半に1単元B区分の単元（かげと太陽）を配置している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取り扱い

- 補充的な学習として既習内容を確認する問題と既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 全学年において「わたしの研究」として、4ページで研究の方法を記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の示し方

- 4年「季節と生き物」では、導入において小学校で見られる動物や植物の春夏秋冬の様子を2ページずつ使用し掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、1つの川の上流と下流の写真に掲載し、全国6つの川それぞれの上流、中流、下流の写真に掲載している。
- 6年「土地のつくりと変化」において最初の問題が提示されるまでに、全国9カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「水のすがた」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、手書き風の表とグラフ例が示され、「結果から考えよう」という項目を立てて、グラフ化させどのようなことが言えるのかを考えさせるようにしている。
- 5年「ふりこ」において、実験の結果を表を表し、「結果から考えよう」という項目を立ててグラフ化させ、グラフの比較から考察に進むようにしている。

意見

教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

（理由）

教育出版の教科書の特徴は、児童が興味・関心をもって学習を進めることができ、問題解決の過程に沿って学習を進め、学習内容の活用を意識付けるものであり、『基礎的・基本的な知識及び技能を活用する力』『観察、実験の結果などについて、その要因や根拠を考察し、説明すること』に課題がある本市児童の実態により対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元によっては最後に「せつ明してみましよう」のコーナーで問題を示している。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色の背景で白色の文字で「注意」と示し、注意点を橙色の点線で囲み赤色の文字で強調して記述している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関する写真やイラストを大きく掲載している。
- 全学年において信濃地方の写真を掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 5年「種子の発芽」において、問題解決の過程に沿ったノート記述例を示すとともに、調べる条件、そろえる条件を区分して条件制御の視点を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 目次において単元名を区分「A 物質・エネルギー」「B 生命・地球」ごとに色分けをして示している。
- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年は12単元、156ページで構成している。
 - ・ 4年は15単元、184ページで構成している。
 - ・ 5年は11単元、158ページで構成している。
 - ・ 6年は10単元、176ページで構成している。
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B 生命・地球」の内容を、後半は「A 物質・エネルギー」を配列している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取り扱い

- 補充的な学習として既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 全学年において「自由研究」として、4ページで研究の方法を記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の示し方

- 4年「生き物のくらし」では、導入において春夏秋冬の様子を2ページずつ使用し掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、1つの川の上流、中流、下流の写真に掲載している。
- 6年「大地のつくりと変化」において最初の問題が提示されるまでに、6カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「水のすがたと温度」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、水が凍る様子についてまとめるようにしている。
- 5年「ふりこの運動」において、実験の結果を表に表し、数値を比較し、考察に進むようにしている。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元の始めに「わくわく理科プラス（別冊）」の使用ページが示されており、「わくわく理科プラス（別冊）」において、これまでの学習が振り返られるように示している。
- 単元の最後に直接書き込める確認の問題が示されており、「わくわく理科プラス（別冊）」において、力試しの問題を示している。
- 各学年の巻末に「〇年生の理科をふり返ろう」のコーナーが1ページで記載され、「わくわく理科プラス（別冊）」において、学習した内容を確認できるように示している。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色の背景で黄色の記号で「！」と示し、注意点を赤色の文字で強調して記述し、「安全眼鏡をかける場面」、「換気をする場面」、「廃液の処理場面」についてそれぞれマークを使用して示している。
- 4、6年において理科室の使い方を写真とイラストで示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関係する写真やイラストを大きく掲載している。
- 3、4年に付録がついており、3年では植物・昆虫を探すための「たんけんカード」、4年では「光る星座カード」を掲載している。
- 広島市内の写真（森林公園こんちゅう館、こども文化科学館のパフレット、かきいかだ）やイラスト（太田川）を掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 全学年において、2ページ使用し、理科の学習の進め方の順序が分かるようにイラストと文字で示され、各学年で重視すべき問題解決の能力についても記述している。
- 5年「植物の発芽と成長」において、問題解決の過程に沿ったノート記述例を示す中で、変える条件、同じにする条件を区分して条件制御の視点を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年は13単元、162ページで構成している。
 - ・ 4年は16単元、186ページで構成している。
 - ・ 5年は11単元、194ページで構成している。
 - ・ 6年は10単元、210ページで構成している。
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B生命・地球」の内容を、後半は「A物質・エネルギー」を配列しているが、前半に1単元A区分の単元（風やゴムのはたらき）を配置している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取り扱い

- 補充的な学習として既習内容を確認する問題と既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 全学年において「自由研究」として、4ページで研究の方法を記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の示し方

- 4年「季節と生き物」では、導入において春夏秋冬の様子を掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、2つの川それぞれの上流、中流、下流の写真に掲載し、1つの川のイラストを示し、特徴的な上流、中流、下流の写真を掲載している。
- 6年「大地のつくりと変化」において最初の問題が提示されるまでに、全国5カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「水のすがた」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、「結果を記録しよう」「結果から考えよう」という項目を立てて表とグラフからどのようなことが言えるのか考えさせるようにしている。
- 5年「ふりこのきまり」において、実験の結果を表に表し、「話し合い」という項目を立てて、数値を比較し、考察に進むようにしている。

平成27年度から使用する広島市立小学校用教科書の採択について

教科 [生活] 種目 [生活]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、町探検、地域の方との交流など、具体的な活動や体験が行いやすい地域もあれば、難しい地域もあり、学習環境は様々である。各学校においては、具体的な活動や体験を行う中で、思考を促す活動や気付きを表出する表現活動を行い、気付きの質を高め、児童の意欲の向上につながる指導計画及び指導方法の工夫に重点を置いた授業づくりを大切にしている。
- 児童は、意欲的に具体的な活動や体験には参加できるものの、実際の生活場面では、地域や自然とかかわるなどの体験する活動や繰り返しかかわる活動が少ない傾向にある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫 ○ 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫 ○ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫 ○ 生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫
＜学習方法の工夫＞	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心を高めるための工夫 ○ 振り返り・表現するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元・内容の配列及び分量
＜内容の表現・表記＞	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適切な写真や挿絵等の活用 ○ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

3 各教科書の特徴及び意見

東
書
（東
京
書
籍）

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象にかかわる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 公園全体の挿絵や商店の様子定点観測ができる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を3回設定し、同じ場所、人に繰り返しかかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 学校生活の中でできるようになったことについて振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。
- 「じぶんのことをふりかえろう」という特設ページを3回示している。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫

- 健康や安全にかかわる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を、ページ右端に「やくそく」として示すとともに巻末の「べんりてちょう」にも示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「すたあとぶっく」では、2名の児童が地域の安全ボランティアに挨拶している写真を示している。
- キャラクター「たいちゃん」の、問いかけや活動を促す吹き出しにより、見通しをもち、意欲的に取り組めるようになっている。
- 植物や虫の特徴を捉えたり、違いさがしによって安全に対する意識をもったりできるクイズが提示されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になるように示している。
- 学習カードの題を自分自身が書き込む形になっており、1年を通じて同じ形式の学習カードを使っている。
- 単元の終わりにアサガオの学習カードを絵本にまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 10単元 下巻 9単元
- 「スタートカリキュラム」を示しており、保護者向けの説明文がある。
- 生活科についての保護者向け説明文が掲載されている。
- 季節の流れを軸に、四季を意識しながら学習が進められるよう単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
 - ・ トンボ・コオロギ・カマキリ・アリ・オンブバッタ・ショウリウオバッタ・エンマコオロギ
 - ・ ツツレサセコオロギ・マツムシ・スズムシ・ウサギ・ハムスター・モルモット・カエル・ザリガニ
 - ・ ダンゴムシ・アゲハ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす学校生活の様子を41枚の写真などで9ページにわたり示している。
- 「いきものとなかよし」の単元の始めでは、ショウリウオバッタの顔のアップの写真を示すなど、片面に大きい写真と児童の吹き出しのある挿絵を掲載している。
- 栽培のページでは、ページ左側の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示しており、変形ページで一連の変化を見ることができる。
- 「ほんもののおおきさずかん」で、児童が栽培する植物は、種や芽等実物大で示している。背景には1cmごとの目盛を示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- ユニバーサルデザインを採用している。
- 季節ごとに色を統一してページを構成している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
 - ①探検マップ ②ポスター ③新聞 ④パンフレット ⑤紙芝居⑥電子黒板
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「べんりてちょう」に、「見つけたことから考えよう」という思考を促す手立てが示されている。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書の特徴は、具体的な活動や体験を行う中で、思考を促す活動や気付きを表出する表現活動を行い、気付きの質を高め、児童の意欲の向上につながる指導計画及び指導方法の工夫に重点を置いた授業づくりを推進している本市の実態や、地域や自然とかわるなどの体験する活動や繰り返しかかわる活動が少ない傾向にある本市の児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象にかかわる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を3回設定し、同じ場所、人に繰り返しかかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 小さい頃からの自分の成長を振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫

- 健康や安全にかかわる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を「がくしゅうどうぐばこ」として単元後や巻末に示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「みんななかよし」では、登校中の児童、地域の人、学校で待っている先生の挿絵を示している。
- 動物のキャラクターによる活動のヒントや注意喚起の吹き出しにより、意欲的に取り組めるようになっている。
- 昆虫の体の部分のアップの写真が掲載されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になるように示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 4単元 下巻 5単元
- 「スタートカリキュラム」を示している。
- 季節の流れを軸に、四季を意識しながら学習が進められるよう単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
 - ・ベニシジミ・アキアカネ・オオカマキリ・アゲハ・シロスジカミキリ・トノサマバッタ
 - ・ナナホシテントウ・イナゴ・イボバッタ・エンマコオロギ・ダンゴムシ・ヤゴ・ザリガニ
 - ・メダカ・オタマジャクシ・ホタル・クワガタムシ・カブトムシ・カミキリムシ
 - ・モンシロチョウ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす家と登校の様子を5枚の挿絵などで4ページにわたり示している。
- 「いきものなかよし」の単元の始めでは、草むらの中を虫取りしている4人の児童の写真と、草むらの透明ページを示すなど、見開きで大きく掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
 - ①探検マップ ②クイズ ③ポスター ④紙芝居 ⑤ペープサート
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「がくしゅうどうぐばこ」に、「いろいろなつたえ方」として、まとめ方や発表方法の例を示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象にかかわる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかわりに関心をもつための工夫

- 公園の様子や町の様子の定点観測ができる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返しかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 友達との交流や小さい頃からの成長を振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫

- 健康や安全にかかわる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を「まなびかたずかん」として単元後や巻末に示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「がっこうたんけん」では、学校に向かっているたくさんの児童と校庭で遊んでいる児童の挿絵を示している。
- 挿絵の4人の子どもたちの吹き出しにより見通しをもち、意欲的に取り組めるようになっている。
- 動物や昆虫の体の部分のアップの写真が掲載されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になるように示している。
- 上巻では一年を通じて顔の表情を書き込む自己評価欄のある同じ形式のものを示している。
- 単元の終わりにアサガオの学習カードを綴じてまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 5単元 下巻 5単元
- 「スタートカリキュラム」を示している。
- 生活科についての保護者向け説明文が掲載されている。
- 「探検」「栽培」「遊び」「飼育」「成長」の五つの活動領域で単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
 - ・モルモット・チャボ・ウサギ・ヤギ・アヒル・トノサマバツタ・アキアカネ・コオロギ
 - ・ショウリョウバツタ・ナナホシテントウ・ダンゴムシ・アマガエル・アメリカザリガニ
 - ・ハムスター・キリギリス・ヤゴ・アリ・アゲハチョウ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす学校生活の様子を見開き1枚の挿絵、20枚の写真と3枚の挿絵のすごろくなどで4ページにわたり示している。
- 「いきものだいすき」の単元の始めでは、2匹のモルモットを囲む4人の児童の写真を示すなど、見開きで大きく挿絵と写真を組み合わせ掲載している。
- 栽培のページでは、ページ右側の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
 - ①探検マップ ②新聞 ③紙芝居 ④絵本 ⑤劇 ⑥ペープサート
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「せいかつ学びかたずかん」に、「じょうずな はっぴょうのし方」を示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象にかかわる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 公園の様子や町の様子の定点観測ができる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を3回設定し、同じ場所、人に繰り返しかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 自分ができるようになったことや、小さい頃からの自分自身を振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫

- 健康や安全にかかわる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を「おぼえてあんぜん」として単元後や巻末に示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「わくわくどきどきしょうがっこう」では、ランドセルを背負った8名の児童と入学式の写真を示している。
- キャラクター「ぐんぐん」「ふりかえる」の活動を促す吹き出しや、注意喚起の吹き出しにより、見通し、振り返るなど意欲的に取り組めるようになっている。
- 写真による興味を喚起するクイズが提示されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になるように示している。
- 活動や気付きの題を自分自身が書き込む形になっている。1年を通じて同じ形式の学習カードを使っている。
- 単元の終わりにアサガオの学習カードを綴じてまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 8単元 下巻 7単元
- 「スタートカリキュラム」を示している。
- 生活科についての保護者向け説明文が掲載されている。
- 季節の流れを軸に、四季を意識しながら学習が進められるよう単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
・モルモット・ウサギ・チャボ・アヒル・カナヘビ・ショウリョウバッタ・トノサマバッタ・ダンゴムシ
・アメリカザリガニ・ヤゴ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす学校生活の様子を9枚の写真、14枚の挿絵などで12ページにわたり示している。
- 「なかよくなるうね小さなともだち」の単元の始めでは、モルモットのアップの写真と児童がモルモットを抱えている写真を示すなど、見開きで大きく写真を掲載している。
- 栽培のページでは、ページ左側の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示している。
- 実物の写真でどんぐりと色付いた葉の様子を提示することで、実際の大きさを比較することができる。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
①探検マップ ②クイズ ③ポスター ④新聞 ⑤絵本 ⑥実演
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「ぐんぐんポケット」に、「はっぴょうしよう」としてまとめ方や発表方法の例を示している。

意見

教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

教育出版の教科書の特徴は、地域や自然とかわるなどの体験する活動や繰り返しかわる活動が少ない傾向にある本市の児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫

- 地域の豊かな自然の中で見る、探す、触れる、育てる等、五感を使い体全体で対象にかかわる学習活動とそれらを通して気付いたことを表現する学習活動を多く示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 「いつものぼしよ」「さんぼみち」で定点観測ができる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 児童一人一人が「命」あるものとの営みを体験できるような学習活動を示している。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 身体的な成長や技能とともに、対象とのかかわり方、接し方等精神的な成長もとらえられるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫

- 健康や安全にかかわる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する活動場面では、注意喚起の言葉をキャラクターが示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「いってきます」では、登校風景、地域と関わっている挿絵を示している。
- 動物のキャラクターの活動のヒントや注意喚起の吹き出しにより、活動に意欲的に取り組めるようになっている。
- 地域に伝わる五節句や伝統行事、伝承遊びを取り上げている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になるように示している。
- 振り返りを作文用紙を用いて記入する例を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 17単元 下巻 14単元
- 「スタートカリキュラム」を示している。
- 地域の豊かな自然や日常的な生活事象を題材にして単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
・ウサギ・ヤギ・ハムスター・アイガモ・カイク

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が登校する様子を見開き1枚、2ページにわたり示している。
- 「たのしいおしょうがつ」では、カルタ取りをしている家族の切り絵を示すなど、地域の特色を盛り込んだ「切り絵」を年間通して示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。
- 縦書き右開きである。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
①探検マップ ②ポスター ③紙芝居 ④ペープサート⑤実演
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合うことを大切にしている。中でも、地域の人との交流の場を多く設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象にかかわる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 町の様子を定点観測できる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返しかかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 学校生活の中でできるようになったことについて振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫

- 健康や安全にかかわる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する活動場面では、！マークを用いて、安全にかかわる事項を示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「きょうからいちねんせい」では、子どもたちが好きなものをもっている挿絵を示している。
- 児童の吹き出しにより、見通しをもち、活動に意欲的に取り組めるようになっている。
- 動物や昆虫の体の部分のアップの写真が掲載されている。
- オリジナルソングを収録している。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になるように示している。
- 単元の終わりにアサガオの学習カードをつなげてまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 7単元 下巻 6単元
- 「スタートカリキュラム」を示している。
- 活動のまとまりごとに四季の流れを示している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
 - ・ウサギ・キンギョ・ニワトリ・モルモット・ハムスター・メダカ・ダンゴムシ
 - ・オオカマキリ・トカゲ・アマガエル・アメリカザリガニ・ヤゴ・ショウリョウバッタ
 - ・ナナホシテントウ・カタツムリ・アゲハ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、見開き2枚の挿絵などで4ページにわたり示している。
- 「いきものとなかよし」の単元の始めでは、ウサギを覗き込む2人の児童の写真を示すなど、見開きで大きい写真を掲載している。
- 栽培のページでは、ページ右側の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
 - ①探検マップ ②ポスター
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象にかかわる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 公園全体の様子や桜の木の写真で定点観測ができるページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返しかかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 学校生活の中でできるようになったことについて振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫

- 健康や安全にかかわる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を「わくわくずかん」として単元後や巻末に示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「いちねんせいになったよ」では、2名の児童と学校生活の挿絵を示している。
- キャラクター「わくわくパンダ」「いきいきウッキー」「なるほどナルホー」の吹き出しにより、見通しをもち、意欲的に取り組めるようになっている。
- 動物や昆虫の体の部分のアップの写真が掲載されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になるように示している。
- 観察カードに観点（みた・きいた・におった・さわった・おもった）を示している。
- 単元の終わりにアサガオの学習カードを綴じてまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 10単元 下巻 8単元 別冊 たんけんブック
- 「スタートカリキュラム」を示しており、「いえのひとにみてもらおう」と紹介している。
- 生活科についての保護者向け説明文が掲載されている。
- 季節の流れを軸に、四季を意識しながら学習が進められるよう単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
 - ・ダンゴムシ・モルモット・ウサギ・カマキリ・アヒル・チャボ・トノサマバッタ・カタツムリ
 - ・カエル・ノコギリクワガタ・ナナヒシテントウ・コオロギ・タニシ・メダカ・クロベンケイガニ
 - ・ヤドカリ・アメフラシ・アリ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす学校生活の様子を17枚の挿絵などで10ページにわたり示している。
- 「生きものとなかよし」の単元の始めでは、ウサギに寄り添う児童のアップの写真を示すなど見開きで大きい写真を掲載している。
- 栽培のページでは、ページ左側の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
 - ①探検マップ ②ポスター ③クイズ ④新聞 ⑤パンフレット ⑥紙芝居 ⑦劇 ⑧実演
 - ⑨すごろく ⑩カルタ ⑪パソコン
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「わくわくずかん」に、「くらべよう」「たえよう」と気付きを表現する手立てを示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象にかかわる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 公園全体や町の様子定点観測ができる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返しかかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 人とかかわりを通して、自分自身の成長に気付く活動を示している。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫

- 健康や安全にかかわる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を「なんでもずかん」として単元後や巻末に示している。

2 学習方法の工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「いちねんせいになったら」では、集団登校、学習中、休み時間に遊ぶ児童の挿絵を示している。
- 動物のキャラクターが問いかける吹き出しにより、見通しをもち、意欲的に取り組めるようになっている。
- 動物や昆虫の体の部分のアップの写真が掲載されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になるように示している。
- 選択式カード、目的式カード、自由記述カード、発展的カードを示している
- 単元の終わりにアサガオの学習カードを綴じてまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 9単元 下巻 6単元
- 「スタートカリキュラム」を示しており、保護者向けの説明文がある。
- 季節の流れを軸に、四季を意識しながら学習が進められるよう単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
 - ・クワガタ・ヤギ・モルモット・ナナホシテントウ・コイ・カナヘビ・ウサギ・ハムスター
 - ・ネコ・ダンゴムシ・アメリカザリガニ・カタツムリ・カブトムシ・ヤゴ・モンシロチョウ
 - ・アマガエル

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす学校生活の様子を24枚の挿絵などで16ページにわたり示している。
- 「いきものといっしょに」の単元の始めでは、たくさんの生き物と子供たちを表した手芸作品の写真を示すなど、見開きで大きい挿絵を掲載している。
- 栽培のページでは、ページ下の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
 - ①探検マップ ②ポスター ③クイズ ④新聞 ⑤実演 ⑥実物投影機
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「なんでもずかん」に、「聞くまとめるつたえる」としてまとめ方や発表方法の例を示している。